

「ハレとケ」通信

「非日常」と「日常」の、日本の風情のかたちを楽しむ暮らしをご提案する季刊誌です。

建設に携わることの幸せを、おすそわけ。

物語のある建築（23）

「【建築の持つ力】を信じる

—良い建築を通じて

世の中を変えるということ—

「ハレとケ」のある 暮らしかた

【季節に応じた暮らし方／

花寄せ屏風の風情】

中津万象園「花の歳時記」

【貴人門によく似合うフヨウの花】



平成 26 年 6 月発行

これほどひどい名前はない…という「ヘクソカズラ」。
オドリコソウといったかわいい名前もある一方で、
ママコノシリヌグイ、ベニバナボロギクなど、
“詩的ではない”名前も多くあって、植物の名前といふのは面白いものですね♪

“詩的ではない”名前も多くあって、植物の名前といふのは面白いものですね♪

「【建築の持つ力】を信じる

—良い建築を通じて世の中を変えるということ—

「建築には、社会・文化・風景・人生・生活を変える力がある。」

この想いは、これまで「ハレとケ通信」の取材を通じてずっと感じ、確信に到ったものですが、だからこそ、私たち建設会社・建築家・建築主には、それらを良い方向へ変える建物をつくる責務があると感じています。

「建築の持つ力を信じる」——あらためてその想いをお伝えしたくて、今回の特集といたします。

建築には、



を変える力がある。

■「建築の持つ力」とは何か

「建物とは器である」という言い方を、皆さまも耳にされたことがあるのではないでしょうか。

確かに、建物は、あくまでも「器」に過ぎないかもしれません。主人公はそこで暮らし、また利用する人間自身。それに對しどこまで優れた器を提供できるかが、建設業を生業とする者の醍醐味と言えるのかもしれません。

ですが、本当に、「器」としての役割しかないのでしょうか？

——実は、建物は、もっと積極的に、まちに、ビジネスに、人生に働きかける力を持っています。

今回の「物語のある建築」では、この建築の持つ力を、「社会」「文化」「風景」「人生」「生活」という切り口に分けて特集します。

建築が社会に働きかける力とは何か。まず、それを考えるために、「ハレとケ通信」第6号で特集した「鵜足津福祉会」の例を考えみたいと思います。

（以下抜粋）

：当時、家の年寄りを施設に預けるのは、姥捨て山に捨てに行くようなもの”といふ根強い罪悪感があった。

それが、小松氏（注・鵜足津福祉会 理事長）の最初の施設『特別養護老人ホーム寿楽荘』の新築時にも、地元住民の反対という形で現れる。云の『擡げぬ支え合ひ』という理念は、なかなか理解されなかつた。

そして、様々な経緯を経て『寿楽荘』が完成。そつそつと、反対していた人びとがお年寄りを連れてやつてき、施設はたちまち満室となる。

「最初、施設に対するアレルギーを感じていた人も、結果的にはやつてきた。というのは、実際にはそういう施設でのサービスは、家庭ではできないことだったし、社会的に必要とされていたから。当時の一般的な住宅（注・間取り・作り）では、どんなに行き届いたお世話をあげたくても、物理的に限界がある。」

■「建築の持つ力 ①社会編」

そして、最近「施設が出来た」といが、住民の意識も変える。

「これまで施設に預ける…ところど後づめたいことだった。だから、地元の施設には入れず、離れたところに入れる。だが、施設に入れば清潔にしてもらひやすく、食事もおいしく、快適な、ありゆの意味で安心できる暮らしをさせてもらひだね。」

ところが、認識が遷透すれば、罪悪感は払拭され、でもまだ訪ねて行きやすい、近くの施設に入れるようになる。やがてそのことは結果的にお年寄りの幸せにつながるし、支え合ひ生きぬ、といつひとにせつながる。小松氏の信念の通り、施設の必要性は社会に認めていくべき。

（抜粋 了）

これはまさに、「建築が社会に働きかけた」例であると思いますが、当時からは時代も進み、今では様々な形態の高齢者施設が生まれたことから、その建物・サービスの特徴や長所を比較できるように列記した「高齢者ホームの選び方」といった本も出版されるまでに、社会の意識は変わりました。

政府の方針としては「在宅」が推し進められていますが、この先施設の過剰供給となれば、もう一步進んだ「高齢者ホームへ入居したくなる」という動機付

けのある施設が登場するかもしれません。また、地域密着や多世代交流など、

従来あつた社会の絆を手にするために対価を払うという時代が来るかもしれません。

「高齢者住宅を地域の福祉資源として位置づけ、サービスや空間や社会関係を地域に開放・共有することにより、自宅・高齢者住宅・施設をカバーした効率的な地域包括ケアの実現が可能」(財団法人「高齢者住宅財團」という見解や、地域包括ケアのイメージ図)でも分かるよ

うに、住まいと住まい方は社会の根底にあります。在宅にせよ、施設にせよ、建物というハードの牽引する役割がより一層大きくなることは間違いないのではないでしょうか。建築が社会を変える力は、これからさらに重要になります。



↑ 地域包括ケアのイメージ図

■ 「建築の持つ力 ②文化 編」

住宅や施設の変化を見ていて、「なぜ、こんなに昔との建物って、違うんだろう?」と不思議に思ったことはありますか。

その理由は、美意識の変化、コスト……色々あるとは思いますが、やはりいちばん大きいのは、「暮らし方の変化」です。建物は、人びとの生活を受け止める「器」ですから、「暮らし方」に合わせて変化するのが、考えてみれば当たり前のことです。

そして、それは言い換えれば、「遊び方」「楽しみ方」の変化でもある、ということ。つまり、「どういう風に遊ぶ(楽しむ)のが好きか。」を如実に表すのが、本来の建物の姿なのです。

いま、私たちの日常はすっかり洋風のスタイルに変わり、それを使って自身を美しく装うことも、部屋・空間を飾ることも、生活を樂

しむ」とも、ずいぶん上手になりました。「日本独特の文化・美」については、「特別な、一部の人たちだけが楽しむもの」という側面がある一方で、改めて若い世代の感覚・眼で見直され、注目されたりもしています。

それに大きな役割を担っているのが、やはり店舗や住宅といった空間を使って魅せることができる「建物」であるよう思います。雑誌やテレビで採り上げられるのは、その建物の持つ力があるからこそです。

日本の文化を、当たり前のものとして理解し、次の世代へ伝える。そのためには、まず、それを生活の中に根付かせなければなりません。「それを使って樂化を根付かせていく——建築は、文化を変える力を持つています。

* 「劇場法」前文より抜粋

我が国においては、劇場、音楽堂等をはじめとする文化的基盤については、それが時代の変化により急速を遂げながらも、国民のための努力により、地域の特性に

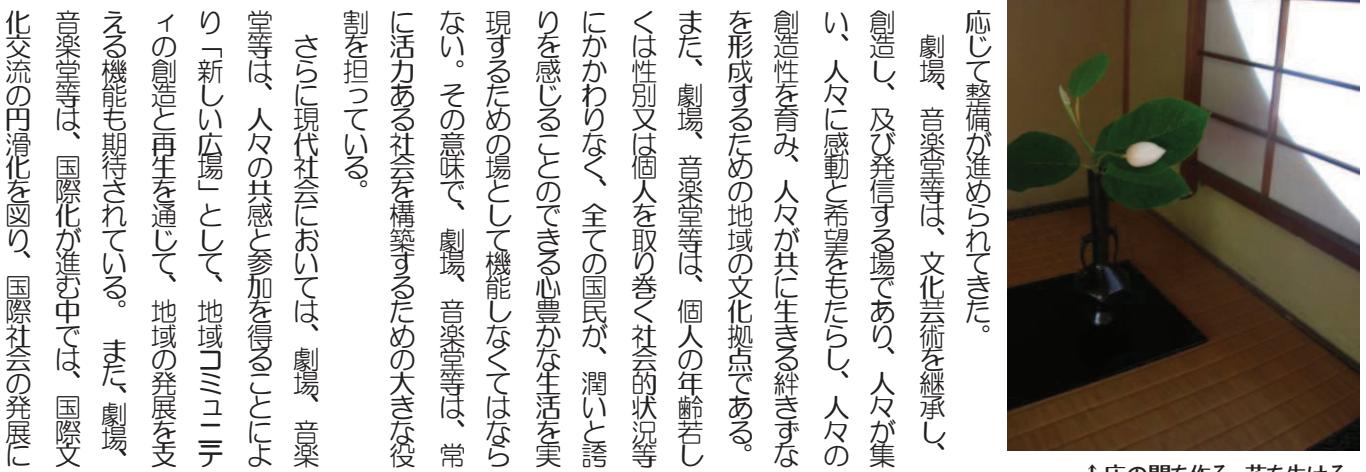
しめる「遊べる」空間があれば、自然と、文化は次の世代へ传わります。

今回例にとったのは「日本文化」ですが、文化を残すだけではなく、新たな文化を根付かせる際にも言えることです。例えば「劇場法」の制定などはそれに当たるのではないか。

建物にある役割を担わせることで、文化化を根付かせていく——建築は、文化を変える力を持つています。



↑ 日本の住宅の美しさは普遍的



↑床の間を作る、花を生ける。

香川の「世界への窓」にもなる「じが望まれる」、「よつて」、劇場、音楽堂等は、国民の生活においていわば公共財としてもこれべき存在である。

(中略)「じが望まれる」、「よつて」視点に立り、文化芸術振興基本法の基本理念にのっとり、応じて整備が進められてきた。

劇場、音楽堂等は、文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり、人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆をつなぎ形成するための地域の文化拠点である。また、劇場、音楽堂等は、個人の年齢若しくは性別又は個人を取る巻く社会的状況等にかかわらず、全ての国民が、潤いと語りを感じる「じが望まれる」心豊かな生活を実現するための場として機能しなくてはならない。その意味で、劇場、音楽堂等は、常に活力ある社会を構築するための大きな役割を担つてこそ。

しかし現代社会においては、劇場、音楽堂等は、人々の共感と参加を得る「じが望まれる」、「新しい広場」として、地域「まち」手の創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている。また、劇場、音楽堂等は、国際化が進む中では、国際文化交流の円滑化を図り、国際社会の発展に

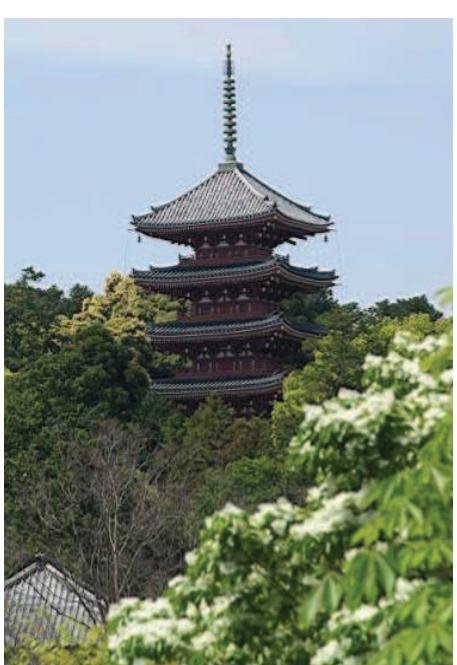
文化芸術振興基本法の基本理念にのっとり、劇場、音楽堂等の役割を明りかにし、将来にわたって、劇場、音楽堂等がその役割を果たすための施策を継続的に推進し、心豊かな国民生活及び活力ある地域社会の実現並びに国際社会の調和ある発展を期すため、この法律を制定する。(平成24年6月27日施行。劇場、音楽堂等の活性化に関する法律)について)

■「建築の持つ力 ③風景 編」

「建築は風景に非常に大きな力で働きます。」これは、おそらく言わずもがなで、皆さま実感としてよく「存じの「建築の持つ力」の例であると思います。風景を構成するのは人工物と自然物がありますが、私たちが日頃目にするのは、ひとの手の加わった風景が殆どです。そしてその主たる構成要素は何と言つても建物でしょう。だから、建物は風景に対しても「責任を負つてゐる」と考えていています。

我が社の社訓(「堅牢・品格・調和」)にも「調和」という言葉が使われていますが、これは、周囲の風景や環境、住まい手の人格や美意識との調和を指しています。

この「周囲の風景の中での建築物がどう見えるか」という視点は、現在では主流となりつつあり、市町の景観審査会等でも基準が定められ、大型の構築物や分譲地開発等についてもその都度検討がなされ



↑竹林寺。塔の存在は確実に風景を変える

ています。また、以前は、建築前の「完成予想図(パース)」を作成する際、その建築物(敷地)単独で作られることが多かつたのが、最近では周囲の風景を取り入れた(合成した)パースが作られるようになりました。

世界遺産等で、統一された町並みが紹介されているのをよく目にしますが、日本の「瓦屋根」の続く風景も同じです。

香川県民の私は、県外へ行くと、オレンジ色がかつた釉薬瓦や黒みがかつた瓦の色に新鮮な印象を受けますが、それを構成しているのは、一軒一軒の家々です。その風景は大切に残したいものではあります。

インのままでは受け入れられなくなるのは当然のこと。「日本らしい風景」を守るためにも、いかに「デザイン」に新風を吹き込むか、その風景の大切さを伝える

建築は、国民の生活の基盤であり、また社会環境を構成する大きな要素である。自然との調和、地域における社会文化、歴史的遺産や伝統の尊重、さらには経済の持続的発展といった国民の基本的な願いを実現するつど、建築の役割は極めて大きい。しかしながら、経済的繁栄を優先したためし国土の多くを建築物によって占めてしまふことがあった」とも註定される。



↑背景を合成したパースの例。(松谷化学工業。寒川建築事務所作成)

(中留) しのよつた事態に反応するためには、建築工事のすべてが、建築工事課が其本理念に基づいて改めて確認し、その責務を自覚するところが不可欠である。

だと考えてます。その叶えようと思う夢は、自分のための場合もあれば、家族、社会、企業のためであつたりもするでしょう。叶えたい何かとは、家族の幸せや、新規事業の展開、社会への貢献かもしれません。

「理念とか方針とか、どうして建設会社がそんなこと口を出すんだ。もうとにかく効性のある、専門的な回答はないのか」と思われるかもしれません、建物というのは、そもそも、使い手の理念や理想を反映してデザインされ、計画されるもの。そして、建物は、いつたん建つてしまうと、方向転換は難しいのです。

環境形成に寄与するための基本理念を宣言し、その基本理念を実現するための各主体の責務を明らかにする所に由り、やつて健康で文化的な生活の確保に寄与し、私たちの社会の持続的発展と公共の福祉の増進に資するに在るに、建築基本法を制定する。

でも、「なにかやりたい」とはあるから、その器(建物)がほしい」という大前提は変わらない。つまり、建物は、お客様さまの夢を叶えるための舞台なのです。

か、——それもまた、建築に携わる人間二果せうれ二果頃矣す。

■ 建築の持つ力(4)
人生・生活編

「ハレとケ通信」を作るようになつてから、「建設業という仕事の格好良さ」を益々実感するようになりました。

社会環境を構成する大きな要素である。自然の調和、地域における社会文化、歴史的遺産や伝統の尊重、さらには経済の持続的発展といった国民の基本的な願いを実現するうえで、建築の役割は極めて大きい。しかしながら、経済的緊急を優先したた

私は、新しい建物（空間）が必要とされる時」というのは、「誰かが、誰かのために、何かを叶えようとしているとき」

素晴らしい思いがあるても、設計図にそれが表現されていなければ、建物に思ひが反映されるることはありません。

お客さまの思いがどれほど設計者に届いているか、設計者がそれを知識と経験に基づいて理解し、どこまで建築物として実現できるかで、「良い建物」たり得るかが決まるのです。

建築は、お客さまの人生・生活に影響を及ぼす力を持っています。だからこそ、その人生をより幸せに成功に導くために、私たちは、あらゆる努力をせねばならない、と考えています。

■「建築の持つ力」への取り組み

これまで実感してきた「建築の持つ力」。その力を最大限に發揮し、世の中を良い方向に変えていくために、私たち富士建設が新たに取り組もうとしていることがあります。それは、「コンセプトブック」を使った取り組みです。

例えば、設計者、工務店をはじめ、金融機関、コンサルタント、広告会社、webデザイナー、人材採用・教育に到るまで、事業には多くの人々が係わります。が、係わるメンバーが、「一堂に会してコンセプトの確認・イメージのすり合わせせ

をする」とはありません。では、いったいどうやってコンセプトを共有するかと言えば、それは事業主の皆さまの役割に掛かっているのです。

ここで言うコンセプトとは、『事業コンセプト』『デザインコンセプト』双方のこと。例えば、『デザインコンセプト』がずれてしまうと、『建物と家具・備品、サイン、パンフレットのイメージが合わない』といった事態が起こりうるため、せっかくの雰囲気が壊れてしまったり、住まい手・使い手が居心地が悪かたり…ということが懸念されます。

また一方で、事業コンセプトが意識共有されないまま進んでしまうと、『事業コンセプトから生まれる必要性に、建物のプランや、家具・備品の使い勝手が一致しない』、『サイン、パンフレットにおいて、事業所がPRしたいことが伝わらない』などといつた不安が生まれます。

それを防ぐために、『事業コンセプト』『デザインコンセプト』をまとめた【コンセプトブック】を作成し、プレるなどなく、プロジェクトにお客さまの想いを貫通させることができるようになります。というのが、この取り組みです。

この「コンセプト」をまとめるという考えは、設計・デザイン上の考え方や、看板やパンフレット等デザインとリンクしないことに疑問を持つたことがきっかけで生まれました。また、【ハレとケ通信】の取材を通じてお客さまの理念や建物に込めた想いをうかがうつけ、「これを採用活動やステークホルダーの皆さんにも伝えられる」と良いのに…、施設パンフレットなどにも、この想いをきちんと載せられると良いのにナ」と感じたことも、要因の一つとなりました。

長いプロジェクトの過程の中で、ぶれずにコンセプトを常に念頭に置いて進んでいくというのは、実は難しいもの。「経営指針書」だけでなく、当該事業の『デザイ

私たちは、良い建物を通して世の中を変えたいと考えています。
良い建物とは、「社会・文化・風景・人生・生活を良い方向に変えることのできる建物」のこと。
ひとつひとつの案件に、その思いを込められる会社になりたい、と願うと共に、「建築の持つ幸せな力」を実感できるか、とても楽しみにしています！（了）

などのコンセプトを「目に見える形」にして傍らに置いて立ち戻れるようにする」とは、建設に携わる者として、ぜひ実現したいスタイルです。

事業にはたくさんの人々が係わりますが…
係わるメンバーが、「一堂に会してコンセプトの確認・すり合わせをする」ことはありません！

『事業コンセプト』『デザインコンセプト』をプロジェクトに貫通させる役割は、実は、事業主さまにかかっています。

もし、『デザインコンセプト』がブレてしまうと…
→ 建物と家具・備品、サイン、パンフレットのイメージが合わない。

もし、『事業コンセプト』がブレてしまうと…
→ 事業コンセプトから生まれる必要性に、建物のプランや、家具・備品の使い勝手が一致しない。
→ サイン、パンフレットで前面に押し出してPRしたいけどが伝わらない。



↑コンセプトブックの説明書

プロジェクトのコンセプト

この地域に必要なものはなにか？

医療施設から出なければならないほどの受け皿
(現状: 地域連携室からの強い要請)

死(看取り)に到るそれだけ明るく、本人も家族も寂しくなく過ごせる場所
→孤立せず地域に密着した施設に

職場復帰をしたいお母さんが、安心して子供を預けられる場所
→高齢には「待機児童」はない?
→0~3歳までの子どもを預けられる場所が必要

●出てきたキーワード

- 施設などにも配慮、気持ちよい環境づくり
- 細て探れた野菜を使って
- 施設の計画段階における「手作り感」大切に(丁寧なものづくり)
- 山を借景
- 建物とお庭を一体化
- ケアマネ、ヘルパーさんなどの教育体制の充実
- 人が集まる場所
- 本人や家族の望む医療、介護、看取り

↑コンセプトブックの一例 (実際には8ページ程度となります)

「ハレとケ」のある 遊びかた・暮らしかた

この季節を暮らしす。(23)

【季節に応じた暮らし方／花寄せ屏風の風情】

↓花寄せに使用した日本の草花と、花寄せ屏風。



そこで、今回は、花寄せに使用する涼しげな「花寄せ屏風」をご紹介致します。

七事式というのは茶の湯の訓練のための稽古法で、江戸中期に表千家と裏千家の兩家元が合議の上作られたもの。日頃のお稽古を遊び風にアレンジした

中津万象園の母屋で数年前まで定期的に行っていた「男性のための茶事入門」。8月のある日、「暑いからお茶」という気分でもないし、朝早くなら涼しいといつても、「6時からというのはなあ…」ということで、花寄せを行いました。

◆花寄せ屏風とは?

そぞ、今日は、花寄せに使用する涼

したものか、はつきりしたことは分かりませんが、花寄せ(廻花、花所望)＝七事式のひとつとして位置づけられていくことから、その七事式の誕生した江戸中期ころにできたようにも思えます。

◆七事式とは?

七事式というのは茶の湯の訓練のための稽古法で、江戸中期に表千家と裏千家の兩家元が合議の上作られたもの。日頃のお稽古を遊び風にアレンジした

つがある。表千家七代の如心斎が、裏千家八代の一燈室や高弟たちと相談して制定した。「七事」は『碧巖録』(臨済宗にて重んぜられる北宋圓悟の書)宗門第一の書とも)にみえる「七事隨身」(指導者としてそなえるべき七つの徳)の語にちなんだ。』とあります。「花寄せ」については、別の本によると、「花寄せは七事式外で裏千家十一代家元玄々齋が貞茶之式を応用して…」とありますので、もと時代が下がるのかもしれません。

屏風は高価ですが、花生釘や掛け花入れは手

的的に行っていた「男性のための茶事入門」。8月のある日、「暑いからお茶」という気分でもないし、朝早くなら涼しいといつても、「6時からというのはなあ…」

この風情ある花寄せ屏風がいつ頃誕生したものが、はつきりしたことは分かりませんが、花寄せ(廻花、花所望)＝七事式のひとつとして位置づけられていくことから、その七事式の誕生した江戸中期ころにできたようにも思えます。

この風情ある花寄せ屏風がいつ頃誕生したものが、はつきりしたことは分かりませんが、花寄せ(廻花、花所望)＝七事式のひとつとして位置づけられていくことから、その七事式の誕生した江戸中期ころにできたようにも思えます。

ものも多い…と言えば簡単そうに聞こえますが、なかなかルールが難しく、一度や一度くらいのお稽古ではまったく覚えられません。

表千家不審庵によりますと、七事式とは「茶の湯の精神、技術をみがくために制定された稽古法。数茶(かずぢや)、廻花(まわりばな)、廻炭(まわりずみ)、且坐(さざ)、茶カフキ(ちやかぶき)、一一三(いちにさん)、花月(かげつ)の七

つがある。表千家七代の如心斎が、裏千家八代の一燈室や高弟たちと相談して制定した。「七事」は『碧巖録』(臨済宗にて重んぜられる北宋圓悟の書)宗門第一の書とも)にみえる「七事隨身」(指

導者としてそなえるべき七つの徳)の語にちなんだ。』とあります。「花寄せ」については、別の本によると、「花寄せは七事式外で裏千家十一代家元玄々齋が貞茶之式を応用して…」とありますので、もと時代が下がるのかもしれません。

が届きそう。屏風以外でもアレンジできそうですから、どこか場所を見つけて楽しんでみてはいかがでしょうか。

また、掛け花入れのような小さな花器には野に咲く素朴な花々がピッタリ。写真には茶花として販売されているものも含まれていますが、意外と身近な場所にも可愛らしい花があるものです。

山で貴重な山野草を採取するのは感心しませんが、これから季節、道ばたに咲く葛や野菊も素朴な風情があって素敵ですよ。



「花の歳時記（23）貴人門によく似合うフヨウの花」

＜中津万象園・丸亀美術館へのアクセス＞
瀬戸中央道路 坂出北ICより
約 8.5km／約 15 分
坂出ICより約 14km／約 20 分
高速道路善通寺ICより約 5km 約 10 分



【長岡 公 氏】

昭和2年10月 香川県丸亀市津森町に生まれる。
昭和26年3月 鹿児島大学鹿児島農林専門学校農学科卒業
昭和26年4月以降 香川県公立高等学校教員として主基高等学校・飯山高等学校・笠田高等学校・農業経営高等学校教諭、高松南高等学校・飯山高等学校教頭
昭和63年3月 定年退職 香川西高等学校教頭
現在 公益財団法人中津万象園保勝会 理事

※主な著書に「讃岐の名園紀行」（栗林玉藻編／中西讃編）
「丸亀城 花の歳時記」がある。

邀月橋を北に渡りそのまま園路を直進しますと、木製で風格のある貴人門（御成門）に着きます。この門のすぐ右側には数株のフヨウが植栽されており、花の少ない晩夏から秋にかけて淡紅色で直径10cm～15cmの大輪の花を咲かせ、この貴人門界隈の好ましい雰囲気をさらに高揚しています。

フヨウは中国原産で、中国ではバスの花に「芙蓉」と名づけ、フヨウは蓮に匹敵する美しい花と名づけ、フヨウは蓮に匹敵する美しい花と名づけ、フヨウは蓮に匹敵する美しい花と名づけ、フヨウは蓮に匹敵する美しい花と名づけ、

日本では本州、四国、九州の暖地に分布し、それらの暖かい海岸線では自生種を見かけます。フヨウの花はしばしば美人に例えられます。が、楚々として艶麗な花を早朝に開いて夕方にはしほみ、そしてあっけなく地に落ちる風情には「美人薄命」と人生の無常をしみじみ感じます。

（長岡 公）

【編集後記】

富士建設は、祖父である利光の起業した建設会社で、社歴は今年で63期目となります。私が入社したのは平成10年のことですが、当時すでに祖父は「ぐ

なっていましたので、共に仕事をしたことはありません。「メンドイひとやつたけど、愛敬があつた」「建築が好きだった」とはよく聞く評ですが、孫である私が一番感じるのは、「祖父は夢を見る才能があつた」ということです。先日、香川出身の著名な経営者であるO社長の講演会に行つきました。その際に心に刺さったフレーズは、「過去・現実の延長線上に夢を描こうとするから大した夢が描けない。過去も現在もどうでもいい。未来だけを見て夢を描け。」でした。

現社長である父は、「まちづくりをしたい」という夢を追い続けています。じゃあ、私は、どんな夢を見たいのか。——いくら考えても、「建築を通じて世の中を変えたい」に立ち返ります。世の中を良い方向に変えるには、良い建築が必要です。そのためにならなければなりません。とは沢山あります。そんな大それたことができるのか妄想かもしれませんのが、やっぱりこれが、私の夢です。

「不老长春」

雅題 文人華の世界（1）



松と薔薇

今回からは万象園の茶亭・觀潮樓にちなんで、文人の「華」を紹介致します。

松は千年の翠と言われ、永遠や長寿、神仙思想の庭園では不老長寿のシンボル的な存在でもあります。また、薔薇（コウシンバラ）は一年中絶えず事無く次々と咲くことから、長春花の別名があるそうです。そこで、この二つを合わせて飾れば「不老长春」というお題となるわけです。いかにも縁起が良いですね！

*****御意見、御感想をお聞かせ下さい*****



建設業許可:香川県知事許可(特23)第189号
／一級建築士事務所:香川県知事登録第416号／宅地建物取引業免許:香川県知事登録(10)第1997号

富士建設株式会社

本社:〒769-1101 三豊市詫間町詫間300番地1
TEL0875-83-2588(0120-832589)

FAX0875-83-5864

<http://www.fujikensetsu.jp>

mail y-manabe@fujikensetsu.jp (真鍋有紀子)

【発行者紹介】富士建設株式会社は、現存する五重塔55基のうち2基を建立し、「建築は文化なり」を理念に掲げて、官公庁建物・各種施設等大型建築物をはじめ、数寄屋風住宅、デザイン住宅、リフォームまで幅広く施工している。また、県下において1300区画超の宅地開発・分譲の実績を持ち、「街づくり」に対する貢献には定評がある。なお、丸亀市指定名勝である「中津万象園」の修復維持保全活動も行っている。

■営業所:高松営業所・丸亀本店・観音寺営業所

■中津万象園・丸亀美術館／丸亀プラザホテル／味処 懐風亭